

429. Souèges, R. (1921) Développement de l'embryon chez l'*Urtica pilulifera* L. Bull. Soc. Bot. France 68: 172-188, 280-294. Treub, M. (1902) L'organe femelle et embryogénèse dans le *Ficus hirta* Vahl. Ann. Jard. Bot. Buitenz. 18: 124-154. Yamazaki, T. (1982) Recognized types in early development of the embryo and the phylogenetic significans in the Dicotyledons. Act. Phytotax. Geobot. 33: 400-409.

□平田眠翁 (著) 生駒義博・生駒義篤 (校訂) : 因伯産物薬効録 431+24 pp.+7 pls. 雄松堂書店, 東京, ¥8,000. 著者の平田景順は晩年に眠翁と号したが, 鳥取池田藩医で山本亡羊に学び, 藩の薬園掛をつとめ, 鳥取県医学校の教授ともなった (文化4年—明治15年)。因幡, 伯耆の両国で広く採薬し, 著書もたくさんあるが何れも出版されていない。本書はその中の最たるもので, 白井光太郎旧蔵, 国立国会図書館所蔵のものを複製したものである。12巻と附録因伯名産之部を各ページの上半に原本を写真にとって入れ, 下半にはそれを活字に直して載せている。各条下には翁が得た形態や土名などを附記していて, たとえば杜衡にはトコザインシという私の知らなかった名があったり, 八橋郡三本杉, 奥日野郡菅沢村奥等に別して多し云々など面白く役立つことが多い。また各巻には生駒氏の細かい注記があがっている。なお附録として, 山陰四州採薬記 (山本篤慶, 28頁), 因伯産物薬効録解説 (北村四郎, 7頁), 平田眠翁の著作について (中島路可, 6頁), 平田眠翁の人と業績 (生駒義篤, 26頁), 眠翁の縁 (田中澄江, 9頁) とつづいて, 著者夫々の人柄を偲ばせてまことに味がある。 (前川文夫)

□白旗史朗 : カラー高山植物 349+23 pp. 1982. 東京新聞出版局, 東京, ¥5,000. 高山植物の図鑑はいくつか出版されているが, これはその図の示し方に於て, また索引に於て変っているのが特色であろう。左の頁を2分して図を示し, 右の頁に解説をしているが, 左側の図は一つを大きくしてその花を明瞭にし, 付け足りの小さな図に実や近似種をあげて説明の参考にしてている。右側の説明は中々丁寧だが, 少しはっきりしない憾みがあるものもある。配列は著者独特で, キク科の次にキンポウゲ科, こんどはツツジ科が来てそのあとにアヤマ科が来るという風で一寸わかりにくい。索引には, 五十音順, 科属と種別, 花期別, それに花色別と四通りも作ってあるのは苦心したところと思う。これは山岳雑誌「岳人」に1979年から満3年にわたって連載した「花の手帳」に多くの追加をして675種としたものであり, 中にはネジバナやクサノオウのような平地のものもままあるけれども, 全部高山地で撮った写真を使っている。 (前川文夫)